



QRコード対応の携帯電話をお持ちの方は、画像を読み込み、サイトをアクセスしていただくことで、県政報告会の様子をご覧いただけます。



海東英和県議会議員事務所 〒520-1501 高島市新旭町旭1-8-5 電話 0740-25-0777 FAX 0740-25-0778 Mail: web\_info@hi-kaito.com ホームページ http://hi-kaito.com



大師山さくら園の運動会では、園児が見事な組体操を発表されました。(令和元年10月5日) 高島では、1年に約300人が生まれてきてくれます。持続可能な地球を子ども達にと、SDG'sの取り組みが高島経済会から始まっています。

(右上)2021第72回植樹祭の皇后陛下お手植え樹に百瀬川流域のエドヒガン (左上)米子市就将小学校に護られる藤樹先生成長の地の碑 (左下)県防災訓練にご参加の地元電気工事組合各位

スカイプ Skype相談開通

滋賀マザーズジョブステーションの相談事業が、スカイプというテレビ電話相談を開始しました。近江八幡まで近江今津からJRで往復3,040円かかりますが、ようやくITの力で不便の解消ができます。

ご利用は、電話予約から。利用案内もしていただけます。他の分野にも広げていくように働きかけます。

☎0748-36-1831 (平日9時~16時)



読書する人は長生き 因みに、1日30分以上読書する人は、しない人と比べ23か月長生きすることや、

「読書のまち『高島』」に参画し、心を耕し、健康寿命も延ばして参りましょう。図書館の中って本を探して結構歩くのだそうです。

子どもたちの読取組みみや、読書には力を入れて取り組んでいく。レファレンス能力を県政全体としても活かしていきたい。

本の魅力を5分以内でPRし、それを競うビブリオバトルが県下でも熱心に取組まれるようになり、二年連続で高島高校生が県大会で優勝されたとのこと。

日本一の読書県復活へ

県民一人当たりの貸出冊数が平成21年に東京都に抜

読書する人は、所得が多くなる傾向が認められています。(米・イェール大学2016年)

滋賀県はパソコンやスマホの保有率が全国1位である。IoT時代をリードする読書の先進県に復活しよう。

ビブリオバトルで大活躍

高島市可燃物焼却場への知事の見解は



県が浸水警戒と考えている霞堤内に計画している高島市の焼却場について、改めて県の見解を問う。

県は、法的に立地の可否を述べる立場になく、二次的影響、汚染物質の流出などの懸念が解消されるよう注視していく立場である。

安曇川本流に北川が合流する場所で、破壊的な渦巻き流が発生すると、河川工学の専門家の指摘について

琵琶湖保全再生法の立場からも、滋賀県は、琵琶湖の水を飲む1450万人に責任がある。汚染することがあってはならない。

琵琶湖保全再生法の立場からも、滋賀県は、琵琶湖の水を飲む1450万人に責任がある。汚染することがあってはならない。



北川の合流により、流体力が発生し、家屋流失等の可能性が指摘されている。千年確立に見直し作業中。

安曇川・高島高校の魅力化方針

県教委は、両校の関係者とも検討を重ね、令和3年4月からの履修コース(案)を下記の通りとし教育委員会に規則改正を付議すると明らかにしました。

- 安曇川高校 (総合学科)
・5つの系列から自分の興味・関心や進路に応じた学びを選べる学校
・少人数で丁寧な授業を受けることができる学校
・教育機関・地域・産業界との連携を推進していく学校
●ライフサポート系列 (新系列)
医療や保育、健康づくり関係の進学・就職を目指し、基礎的な学力の養成と専門的な学びを深める。
●ロボティクス系列 (旧メカトロニクス系列)
機械加工や制御技術の基礎を習得するとともに、ロボット製作の過程で実践的な機械制御について学び、製造業等で即戦力となる技術者を養成。
●アーキテクト系列 (旧建築デザイン系列)
建築や測量等の基礎を学習し、建築士を志す技術者や建設・土木業等で即戦力となる技術者を養成。
●総合ビジネス系列 (旧ビジネス会計系列)
商業を総合的に学び、ビジネス社会で活躍できる人づくりを目指す。
●情報ビジネス系列 (旧ビジネス情報系列)
情報処理に関する知識や技術を活用して地域社会で活躍する人づくりを目指す。

高島高校 (普通科・文理探究学科)

- 遠くの進学校に行かなくても進路実現ができる学校
●文理探究学科 文理探究科 (新学科)
文系や理系といった既存の学問の枠組みにとらわれず、探究的な学びを通して知的好奇心を高め、新しい時代を拓く思考力・表現力を身につける進路に特化したカリキュラムで、国公立大学進学を目指す

耕運記



1月24日に厚生産業常任委員会の委員長に就任しました。前任者が大津市長に就任したため、年度終盤からですが、早速新型コロナウイルスに対峙する事となり、医療の面と、中小企業の融資や支援の面に向き合っています。

令和2年度予算についても、5705億円の大型予算を可決しましたが、税収の極端な落ち込みを見込みつつ、最も適切なタイミングで予算を執行するよう見守って参ります。不妊治療への支援制度が裏面のとおり充実します。高島では現状、念願の新しい命を授かったときに、ハイリスク妊産婦さんには、大津日赤を受診するように勧められるため、高島から大津へ行かねばならないハイリスク妊産婦への支援が必要であると、常任委員会で訴えています。